

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 28 年 6 月 3 日現在

機関番号：12603

研究種目：基盤研究(A) (海外学術調査)

研究期間：2011～2015

課題番号：23251010

研究課題名(和文) インド洋西域島嶼世界における民話・伝承の比較研究

研究課題名(英文) Comparative study of folktales and traditional literature in the western regions of Indian Ocean

研究代表者

小田 淳一 (Oda, Jun'ichi)

東京外国語大学・アジア・アフリカ言語文化研究所・教授

研究者番号：10177230

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 31,700,000円

研究成果の概要(和文)：我が国では殆ど研究が行われていないインド洋西域島嶼世界の民話・伝承を現地で採話・収集し、各地域の言語や方言によるテキストを日本語に翻訳し、研究期間内に対訳形式で7巻の民話集を刊行した(セーシェル2巻、マダガスカル2巻、コモロ2巻、モーリシャス1巻)。それらの民話集は現地にも還元され、セーシェル民話集は観光・文化大臣褒賞を受賞し、コモロ民話集は本国以外に居住する移民が母国の口承伝統を知る手がかりとして、またマダガスカル民話集は主要な方言をほぼ網羅した功績、さらにモーリシャス民話集では本研究課題が提唱したボージプリー語のラテン文字への優れた転写方法などの点で高い評価を受けた。

研究成果の概要(英文)：For this study, we collected folktales and traditional literature of the islands belonging to the western region of the Indian Ocean, which is generally not a subject of studies in Japan. Over a period of 5 years, we translated the texts in the original languages into Japanese, and published the following 7 bilingual collections: 2 volumes of Seychellois folktales, 2 volumes of Malagasy folktales and traditional literature (in 5 dialects), 2 volumes of Comorian folktales (in 2 dialects), and 1 volume of Bhojpuri folktales in Mauritius. These collections were also donated to the local people of the respective region, who regarded them highly. For instance, the Seychellois folktale collection was awarded a certificate of appreciation by the Seychelles Ministry of Tourism and Culture and a new method proposed by us (for transcribing Bhojpuri text into Latin characters, contributing to local researchers' awareness of the rigid corresponding relationship between sound and symbol).

研究分野：民話学

 キーワード：民話 インド洋西域島嶼世界 セーシェル コモロ モーリシャス マダガスカル 国際研究者交流
文学一般

1. 研究開始当初の背景

インド洋西域島嶼世界は我が国においては文化人類学や歴史学以外に殆ど調査が行われておらず、本研究課題は当該世界の民話・伝承を主な対象として本格的な研究を行う我が国で初めての試みである。また当該世界の幾つかの地域ではグローバリゼーションによる生活様式の様々な変化に伴って口頭伝承の継承が危ぶまれており、本研究課題で収集した民話・伝承の現地への還元は文化的国際貢献として位置付けられる。

2. 研究の目的

(1) 参与調査によって民話・伝承を採録し、各地域の個別言語によるテキストと和訳から成る対訳テキストシリーズの編纂・刊行を行い、我が国では知られていない当該地域の民話・伝承を紹介することによって文化的な理解を促進する。

(2) 刊行された民話・伝承のテキスト集を現地に還元することによって、口頭伝承の継承や研究に貢献する。

(3) 生物情報学モデルを援用してテキスト構造の分析を行い、テキスト外世界の要因、例えば人の移動や各地域の歴史的・文化的背景などが関与している、民話・伝承の伝播及び物語の変容についての比較研究を行う。

3. 研究の方法

(1) インド洋西域島嶼世界（セーシェル、マダガスカル、コモロ、モーリシャス）及びそこから移住したディアスポラの居住地を対象とした参与調査によって、民話・伝承の語りを採取すると共に、各地域に残された関連資料の収集を行う。

(2) 採取されたテキストの和訳を行い、現地の各個別言語と和訳との対訳テキスト集を編纂する。

(3) 主に和訳テキストを web 上で公開する。

(4) 生物情報学の各種ツールを用いて、モチーフの分布・連鎖構造を、歴史的・文化的背景との関与性に基づいて分析する。

4. 研究成果

(1) 主な成果として、対訳形式による 7 巻の民話集（セーシェル・クレオール語民話 2 巻、マダガスカルの主要な方言による民話 2 巻、ンガジヤ・コモロ語による民話 1 巻、ムワリ・コモロ語による民話 1 巻、モーリシャスのボージュプリー語による民話 1 巻）を刊行した。これらの民話集は我が国で初めて刊行された、原語テキストとその日本語対訳である。また採話した現地の研究者や研究機関にも還元され、以下に述べるように各地で高く評価された。

(2) 得られた成果の国内外における位置づけとインパクト

位置付け

ひとつの研究組織がインド洋西域島嶼世界のまとまった民話集を刊行したことは我が国はもとより世界でも例がなく、また当該地域では口頭伝承の実践が様々な要因によって廃れつつあり、日本の研究者によるそれらの保存は各島嶼で高く評価された。

インパクト

セーシェル民話集第 1 巻は、セーシェル文化の普及に貢献したとして同国の観光・文化大臣褒賞を受賞し、マダガスカル民話集は在マダガスカル日本大使館関係者より現地の国語教育に用いることを照会されたが、採録テキストが標準マダガスカル語ではなく各地方の方言であることから実現には至らなかった。住民の約 70% がインドからの移民の子孫であるモーリシャスについては、アフリカ系のセーシェル民話に近いモーリシャス・クレオール語の民話ではなく、インド系住民がインド本土から伝え、時にはモーリシャスの風土と融合させてきたヒンドゥー語系のボージュプリー語によるモーリシャス民話を刊行し、現地のインド系住民が祖先の出身地の文化を継承する縁として評価された。収録した 21 編は日本語訳に加えて英語訳も収録し、また 5 編についてはラテン文字版ボージュプリー語テキストとデーヴァナーガリー文字版ボージュプリー語テキストを加えた 4 言語表記による対訳となっている。ラテン文字版ボージュプリー語テキストについては、転写方式が未だ統一されていないことから研究協力者町田が提唱した新たな転写方式が現地の研究者に大きなインパクトを与えた。本研究課題の成果が与えたインパクトに関して特筆に値するのは、コモロで最も高名な作家・民話研究者であるサリム・ハテュブ氏を共編者としたコモロ民話集であり、本国から世界各地に移住した移民が母国の口承伝承を知る契機となっている。また、当該民話集の刊行日にハテュブ氏が急逝して国葬が行われた際には、氏の生前の最後の編著として本研究課題によるコモロ民話集が話題となり、さらに、商業出版された最後の作品に付された著者紹介（フランス・アマゾン <http://amzn.to/24wQW68>）には、氏が本研究課題の研究協力者であったことが、研究代表者小田と研究分担者花淵の名と共に挙げられている。

今後の展望

インド洋西域島嶼世界の文化的中心でありながら、既に多くの民話集が刊行されているために本研究課題では民話の刊行に至らなかったフランス海外県のレユニオン島において、最終年度に職業的な民話の語り部（ベテラン・若手を含めて 7 名）の口演を収

録し、また語り部協会の会長に面談した際に、当地における最近の民話の受容状況について聞き取り調査を行った。その結果、かつては当該地域における民族の多様性と関連付けられて民族誌の重要な資料として位置付けられていた民話が、現在では種々の事由から大学などのアカデミズムからは、音楽や舞踊など他の伝統文化と比較して軽視されていることが判明した。しかしその一方で、レユニオンにおいては他の島嶼とは異なり、現在でも民話の口演は盛んに行われており、インド洋西域という同一地域におけるこの種の文化的偏差は様々な観点から研究に値するものと思われる。

研究開始当初に予期していなかった事象

当初は、各地で採話したテキストからモチーフを抽出し、その索引を作成することを目的のひとつとしていたが、原語テキストの翻訳に多大な労力と時間を要したために、一部のモチーフを抽出するに留まった。この作業を効率よく行うには、翻訳の際に併行してモチーフを可能な限り抽出するためのある種のテンプレートなどを準備する必要がある。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕(計12件)

飯田卓、マダガスカル町の町と自然 28 アントゥエチャ その後の霧の森のくらし、Serasera、34、2016、33 - 35

小田淳一、二言語併用者における語彙レベルの干渉現象 - フランス在住コモロ移民一世の事例 -、2015 年度人工知能学会全国大会(第29回)論文集(CD-ROM)、査読有、2015

<https://kaigi.org/jsai/webprogram/2015/pdf/3G3-OS-05a-2.pdf>

Taku IIDA, Toward an Anthropology of Heritage Practices, *The Newsletter of International Institute for Asian Studies*, 70, 2015, 46-46,
https://www.academia.edu/12231166/Responses_to_the_manifesto_Heritage_beyond_the_boundaries

小田淳一、インド洋民話のデータベース化、*FIELD PLUS*、13号、2015、25 - 25
http://repository.tufs.ac.jp/bitstream/10108/81854/1/field-13_p25.pdf

小田淳一、物語における「三回化」の諸相、2014 年度人工知能学会全国大会(第28回)論文集(CD-ROM)、査読有、2014
<https://kaigi.org/jsai/webprogram/2014/pdf/3.pdf>

小田淳一、翻訳における中間言語の陥穽 - セーシェル・クレオール語の事例 -、人工知能学会第2種研究会ことば工学研究会資料集(SIG-LSE-B303)、2014、1 - 4

小田淳一、トリックスターと魔人とは相まみえず?、2013 年度人工知能学会全国大会(第27回)論文集(CD-ROM)、査読有、2013
<https://kaigi.org/jsai/webprogram/2013/pdf/86.pdf>

小田淳一、物語構造における「反復」の装飾性、2012 年度人工知能学会全国大会(第26回)論文集(CD-ROM)、査読有、2012
<https://kaigi.org/jsai/webprogram/2012/pdf/252.pdf>

〔学会発表〕(計9件)

Taku IIDA, Regenerative Medicine of Culture: A Perspective Based on the Woodcrafting Knowledge of the Zafimaniry, Madagascar, International Symposium "Authentic Change in the Transmission of Intangible Cultural Heritage", National Museum of Ethnology, Suita, Japan, 20160312

深澤秀夫、マダガスカル北西部における国家の法と民衆の掟との境界面、東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所フォーラム、東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所、20131212

花淵馨也、ンガジジャ島の年齢階梯制、日本島嶼学会 2013 年次高知・柏島大会、大月町農村環境改善センター(高知県大月町)、20130908

深澤秀夫、盟神探湯(くがだち)と人民裁判 - マダガスカルにおける国家の法と民衆の掟との隙間 -、第7回四大学連合文化講演会(招待講演)、東京工業大学大岡山キャンパス、20121012

小田淳一、コモロ民話におけるモチーフ群のマイクロ/マクロな結合、東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所基幹研究「人類学におけるマイクロ-マクロ系の連関」第4回公開セミナー、東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所、20120719

深澤秀夫、インド洋の中のマダガスカル - マダガスカル人の起源からマダガスカル人の独立まで -、東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所基幹研究「アフリカ文化研究に基づく多元的世界像の探究」第3回公開セミナー、東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所、20120619

花淵馨也、援助文化の創造 - マルセイユの

コモロ系移民における同郷組合活動 -、日本
アフリカ学会第 49 回学術大会、国立民族学
博物館、20120527

〔図書〕(計 16 件)

町田和彦、小田淳一、杉本星子、ギルジャ
ーナンドシング・ビーセーサル(アルヴィン
ド)、東京外国語大学アジア・アフリカ言語
文化研究所、モーリシャスのボージプリー語
民話、2016、164

飯田卓、西本希呼、ラザフィアリヴニ・ミ
シエル、深澤秀夫、東京外国語大学アジア・
アフリカ言語文化研究所、マダガスカルのみ
話 II、2016、178

深澤秀夫、マダガスカルにおける老いと力
—祝福・呪詛・勘当—(69 - 93)、花淵馨也、
老いてなお子ども—コモロ諸島・ンガジ
ジャ島における年齢と階梯—(159 - 186)、九
州大学出版会、田川玄、慶田勝彦、花淵馨也
編『アフリカの老人—老いの制度と力をめ
ぐる民族誌』所収、2016、260

花淵馨也、小田淳一、サリム・ハテュブ、
アブドゥ・バカル・サイド、コモロ諸島の
民話 II - ムワリ島方言民話、東京外国語大
学アジア・アフリカ言語文化研究所、2015、217

小田淳一、花淵馨也、サリム・ハテュブ、
アブドゥ・バカル・サイド、コモロ諸島の
民話 I - ンガジジャ島方言民話、東京外国
語大学アジア・アフリカ言語文化研究所、2015、
271

深澤秀夫、ラザフィアリヴニ・ミシエル、
マダガスカルのみ話 I、東京外国語大学アジ
ア・アフリカ言語文化研究所、2015、139

小田淳一、セーシエルの民話 II、東京外国
語大学アジア・アフリカ言語文化研究所、
2015、219

深澤秀夫、ルイ・カタ著『マダガスカル旅
行記 1889 年～1890 年』所収画像・解説、東
京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研
究所、2015、162

飯田卓、人類学者はなぜ遊んでいるように
みえてしまうのか？(94-107)、東京外国語
大学出版会、床呂郁哉編『人はなぜフィー
ルドに行くのか - フィールドワークへの誘
い -』所収、2015、304

小田淳一、セーシエルの民話 I、東京外国
語大学アジア・アフリカ言語文化研究所、
2014、289

飯田卓、身をもって知る技法 - マダガス
カルの漁師に学ぶ、臨川書店、2014、222

深澤秀夫、関係を調べることの迷宮 - 教え
られなかったフィールドワークの中から -
(86-104)、東京外国語大学出版会、西井涼
子(編)『人はみなフィールドワーカーである
人文学のフィールドワークのすすめ』所収、
2014、296

Jun'ichi Oda, *Combinaisons micro-macro
scopiques des motifs du récit dans les
contes comoriens(11-25)*, Jun'ichi Oda et
Yu-Sion Live (eds.) *Culture(s), création et
identités: un regard anthropologique
pluriel*, Institut de recherches sur les
Langues et les Cultures d'Asie et d'Afrique,
Université nationale des Etudes
Etrangères de Tokyo, 2014, 326

飯田卓(編)、霧の森の叡智 - マダガス
カル、無形文化遺産のものづくり、国立民族学
博物館、2013、148

花淵馨也、移動するシングル女性 - コモロ
諸島における越境と出産の選択(227 - 252)、
人文書院、椎野若菜編『境界を生きるシ
ングルたち』所収、2013、280

飯田卓、深澤秀夫、森山工(編)、マダ
ガスカルを知るための 62 章、明石書店、2013、
358

〔その他〕
ホームページ等
http://www.aa.tufs.ac.jp/~odaj/contes_ocean_indien.html

6. 研究組織

(1) 研究代表者

小田 淳一 (ODA, Jun'ichi)
東京外国語大学・アジア・アフリカ言語文化
研究所・教授
研究者番号：10177230

(2) 研究分担者

深澤 秀夫 (FUKAZAWA, Hideo)
東京外国語大学・アジア・アフリカ言語文化
研究所・教授
研究者番号：10183922

杉本 星子 (SUGIMOTO, Seiko)
京都文教大学・総合社会学部・教授
研究者番号：70298743

森山 工 (MORIYAMA, Takumi)
東京大学・大学院総合文化研究科・教授
研究者番号：70264926

花淵 馨也 (HANABUCHI, Keiya)
北海道医療大学・看護福祉学部・教授
研究者番号：50323910

飯田 卓 (IIDA, Taku)
国立民族学博物館・先端人類科学研究部・准
教授
研究者番号： 3 0 3 3 2 1 9 1

(3)研究協力者

町田 和彦 (MACHIDA, Kazuhiko)
西本 希呼 (NISHIMOTO, Noa)
ラザフィアリヴニ・ミシエル
(RAZAFIARIVONY, Michel)
サリム・ハテュブ (HATUBOU, Salim)
アブドゥ＝バカル・サイード (SAID, Abdou
Bacar)
ギルジャーナンドシング・ビーセーサル (ア
ルヴィンド) (GEERJANANDSINGH,
Bissessur (Arvind))
マリー＝アニック・ジャンス (GENCE,
Marie-Anick)
ユ＝シオン・リヴ (LIVE, Yu-Sion)